

実践行動具体策実績

◎100%以上達成、○80～100%達成
△50～80%達成、×50%未満達成

部門名 総務係

平成24年度

区分	項目	行動具体策	結果	備考
1	会計経理	23年度決算の迅速な終了	◎	
		利用者代金未集金回収努力	△	集金は何度も催促していますが、決まった人がいつも未収です。
		会計基準改定への準備・研究(導入25年度)	—	研修には参加した。27年度からの導入に向け準備している。
2	コストダウン	勤務表、時間外有給簿の処理	○	職員に自覚が芽生えてきたようです。
		有給簿、勤務変更簿の事前記入推進	○	職員に自覚が芽生えてきたようです。
		新入職員のスムーズな受け入れ	◎	
		入所者預り金口座開設促進	○	
3	法令遵守	規定・契約書・重説見直し	◎	
		衛生委員会開催	◎	
		自己チェックシートによる各事業自主点検	◎	
		実地指導向け各係必要書類・帳簿点検	◎	
		事業者免許更新	◎	7事業
4	建物備品管理	高圧引き込みケーブルの取替え	◎	
		大曲・向陽・みなと設備・備品の軽易修繕	◎	
		大曲・向陽・みなと設備・備品の衛生美化助言	◎	
5	衛生管理	状況に応じた施設内外消毒	◎	
		特養・呼人ディのワックスかけ	◎	
6	防火	マニュアル訓練	◎	
		防火設備点検	◎	
7	広報	『虹』、『レインボー通信』の発行	◎	
		ホームページ更新	×	一昨年度更新依頼したデータも更新されていないため、更新データの作成はしたものの24年度は見合わせた。また先方へ問合せしたが、返事もない状態であった。

部門名 業務係

区分	項目	行動具体策	結果	備考
ステップ4	記録のダブルチェック	総合記録シートの毎週の振り返り	○	
		振り返りと申し送り(週間ケア会議)	○	
週間会議 スーパーバイズ		ケア方法の決定	△	ケアの方法実践にあたり実施まで時間がかかりすぎてしまうことが多くあった。
		ステップ 5 ユニット会議	○	
		ユニット会議議題書作成	○	
		ユニット会議開催、ケア方法の確立	△	
ステップ 6 リーダーの役割 と現場統括責任 者の役割		リーダーの役割の確認	○	
		リーダーの役割の実践	○	
		現場統括責任者の役割の確認	△	役割まで確立できていない。
		現場統括責任者の役割の実践	△	実践まで至らぬことが多かった。
ステップ アリー ダー会議、全体 会議、ユニット会 議の連動		各会議開催内容の連動検討	○	
		各会議開催内容の連動開始	○	
職員育成		新人職員面談シートの作成	○	
		業務終了後の10分面談開始 (介護主任+リーダー+相談員)	○	
就労2週間まで		週に1回以上の面談を行う	○	
就労1ヶ月～		月に1回以上、面談を行う	○	
就労2ヶ月～			○	
南棟トイレ改修		南棟トイレ改修工事原案作成	×	原案を作成することが出来なかった為、次年度繰越
洗面蛇口 取り換え		工事単価見積もり・発注	×	
		工事開始	×	
個浴購入		個浴購入検討(対象者調査)	×	個浴使用の調査以外行うことが出来なかった。
		個浴購入検討(対象者調査)	×	次年度繰越
食事支援		テーブル・椅子購入検討	×	検討まで至らなかった。
		テーブル・椅子購入	×	次年度繰越

部門名 給食係

区分	項目	行動具体策	結果	備考
1	施設利用者	対象者の状態把握	○	本人に会い摂取状況確認する
		形状選定	△	介護員と共に検討
		経過確認	○	期間決め行っている
	在宅利用者	切り方、味付けはどう？	○	厨房内で相談しながら
		盛り付け、お届けは？	○	日々の状況に合わせてお届け時間も変更した
		利用者さんの声を聞こう	○	訪問での聴き取り行う
2	人材	調理教育	○	ディサービス担当者1名追加5名体制になる
		人材確保	○	栄養士調理員兼務1名採用ありました
3	物品	清掃	○	毎日行いました
		点検	○	
		修理	○	
		購入	○	ポット、ミキサー、食器の購入する
4	設備	大型機器点検	○	業者契約年2回
		補修	○	点検後随時
		購入	○	食器洗浄機、ガス台、冷凍冷蔵庫入れ替え行う
5	管理	書類整備	○	指導査察後整備行う
		他事業所との連携	○	随時電話、書類で確認
6	その他	治療食	○	今年度全員新たに了解書作成した

区分	項目	行動具体策	結果	備考
1	安心	普段から体調に自信が無い等弱気な発言をして休みがちだったりしている方には、次回利用日の前日や当日朝に電話し、体調等を尋ねてみる。	△	対象者が入院・ショート利用にシフトしてしまっておりなかった
		電話にて話し、大丈夫な様であれば、デイに来て皆に元気な顔を見せるよう勧めてみる。	△	デイ利用時に直接話した方が励ましの効果が出ている感じ
		体調不良等を理由に休んだ際、必要に応じて担当ケアマネ・家族等に連絡、最近の様子や事情を伝える。	○	TEL以外にもFAX・自宅送迎時・事業所訪問等に連絡取り合っている
2	入浴	安全に配慮し、安心して温泉入浴を楽しめるよう、バイタルチェック時の体調を確認し、なるべく希望に沿ったり、体調に影響が少ない時間帯で入浴して頂けるよう配慮する。	△	皆一緒に入りたいのか、概ね午前中に入浴してしまっている
		仲の良い利用者さん同士と一緒に楽しく入浴できるよう声掛けし、配慮する。	○	
		入浴中の洗身洗髪、更衣室での衣類着脱中等、職員は楽しい会話を提供しつつ、利用者さん自身が自分で出来る事はやって頂くよう声掛けし、配慮する。	△	自分では出来ても、職員が背中を流すと喜んで頂けるので…
3	食事	配膳や下膳、ご飯や味噌汁の盛り付け等、その都度利用者さん達に声掛けし、出来る方には職員と一緒に頂くようお願いし、まよ	△	配下膳はOK。盛り付けは場合によって職員が配慮する場面が見受けられた
		嗜好の関係等で残す事が多い方には、それとなく食後の感想を尋ね、今後の参考になる話を聞けるよう配慮します。	△	「嫌いじゃないけど今朝食べてきたから…」等、事前配慮が難しい嗜好もあった
4	行事レク 趣味活動	毎月、外出行事(買物・観光等)を計画し、出来るだけ利用者さんの希望に則えるよう配慮します。	△	毎月実施していたが、行く場所の固定化は相変わらず
		利用者さん希望時に、バスや塗り絵、オセロやプリント計算問題解き等の個別活動や、輪投げやスカットボール等の多人数の運動系レク活動もすぐに行えるよう随時準備し、実施します。	△	曜日・メンバーによりばらつき有り。何もしたくない方もそれなりにいらっしゃるの…
5	点検・整備・修理	機械浴槽・自動ドア・FFストーブ・送迎車等	○	
		その他の設備・物品等のトラブル対応	○	

部門名 あいむデイサービスセンター

区分	項目	行動具体策	結果	備考
1	スター制度	・理解したスター制度を行動に移す	○	
		・毎日ミーティング後にその日のスターと振り返り	△	
		・1カ月毎に反省会を行う(会議にて)	○	
2	プログラム作成	・毎月の会議にてプログラムの作成・見直し	△	
		・利用者さんから話を聞く(日々)	◎	
		・要望・希望があれば検討する(すぐ実行できる物は、即実行する)	○	
		・(H23年度に希望の多かった)一泊旅行の検討・実施	△	
		・評価	△	
3	誕生日プログラム	・誕生日の企画・準備	◎	
		・実施	○	
		・評価	○	
4	4毎月評価	利用者さんの評価(評価表作成)	◎	
		あいむの評価	○	

部門名 在宅介護支援センター

区分	項目	行動具体策	結果	備考
対顧客 サービス内容	【まめまめ】 【身軽さ】 【癒し】	【出会い～関わり】信頼関係確立		
		新規受付(適正件数考慮)	△	
		極力複数訪問	△	
		必要に応じ他居宅事業所へ照会	-	
		話をじっくり聞く、共感する。	◎	
		本人の出来ることや強みに焦点をあてる	△	
		ケアマネジメント必須業務	◎	
		相談依頼の早期判断と対応	○	
		調整役の意識確立、サービス担当者との連携	○	
		社会資源の開拓と活用	○	
		【終結】振り返り		
事例の整理とプロセスの再確認	△			
事例検討→自己評価(気付き)へ	×			
人材	【広い専門知識とスキルアップ】	研修会の参加	○	
		主任介護支援専門員取得	◎	
管理	【各種加算】 【委託・その他】	加算の位置づけ検討	-	
		要介護認定調査	◎	
		そうさく助け合いへの協力	○	

部門名 在宅係訪問介護

区分	項目	行動具体策	結果	備考
1	顧客サービス	・ケース検討/打ち合わせ	○	
		見直し	○	
		サービス自己評価	○	
		まとめ	△	
2	人材	1名募集	○	
3	管理	健康管理	△	
		必要書類の確認・整備・整理	○	
4	サービス責任者	他事業所との情報交換	○	
		主任者会議	○	
		精神障害者ホームヘルプ事業連絡会議	○	
5	人材育成	内部研修としてのヘルパーミーティング	○	
		・事例検討	○	
		・病気	○	
		・介護方法/制度	△	
		外部研修	△	
		介護福祉士の奨励	○	

実践行動具体策実績

◎100%以上達成、○80～100%達成
 △50～80%達成、×50%未満達成

部門名 大曲レインボーハイツ

平成24年度

区分	項	行動具体策	結果	備考
1	ダブルチェックにおける会議の運動性を図る	サブリーダーによるダブルチェック(気になる点)	○	サブリーダーによるダブルチェックは概ね行なっていた。
		リーダーのダブルチェック後の週間ケア会議	△	サブリーダー・リーダー・管理者とのダブルチェックによる週間会議は10月くらいまでは、順調に行なわれていた。
		ダブルチェック後の各会議の連動	○	ユニット会議は定期的に行なっていた。
2	基礎介護研修における困難事例の取	個別事例の実践	×	対象者2名が入院後死亡された為、実践に繋がらなかった
		見直し	×	対象者2名が入院後死亡された為、見直しに繋がらなかった
		ケア継続	×	対象者2名が入院後死亡された為、ケア継続に繋がらなかった
3	新人職員育成	面談による新人育成	○	概ね面談ができた。
		担当性による新人育成	○	担当者をつけて、新人教育ができた。
4	中堅職員育成	基礎介護に沿った個別ケアのプログラム作り	×	具体的なプログラム作りまでには至らなかった。
		個別ケアの実践	×	
5	地域繁栄交流の策	防災時等の地域(町内会)との連携作り	○	運営推進会議にて施設での災害対策等の話し合いを行った。町内会での「災害福祉マップ」「要支援者台帳」にも施設に対しての対策を盛り込んでもらえることができた。
		防災訓練の実践	◎	年2回実施した。

部門名 向陽ヶ丘レインボーハイツ

区分	項	行動具体策	結果	備考
1	・グレードアップケア・チェックシートの実践、再確認	総合記録シート・日誌の理解・書き方の再確認	○	
		総合記録シートのダブルチェック・週間ケア会議の定着・向上	○	
		記録とユニット会議議題書の連動	○	
		ユニット会議、リーダー会議、全体会議の連動	○	
		オペレーションシートの作成	△	
		オペレーションシートの導入・実践	×	
2	職員育成・定着化	新人職員の面談シート作成	○	
		新人職員との面談	○	
		新人職員の育成・相談	○	
		リーダー会議での育成	○	
		安心して生活できる環境整備	○	
		畑・花の苗の管理	○	
3	施設環境整備	地域行事への参加・協力	○	
		運営推進会議(年6回)	○	
4	地域交流の策	向陽クラブとの交流	○	
		「にじ色便り」の発行	○	

部門名 みなとレインボーハイツ

区分	項	行動具体策	結果	備考
1	ケア・運営体制の基礎作り	総合記録シート・日誌の書き方検討見直し	×	
		総合記録シート・日誌のダブルチェックとミーティングの再確認	×	検討はしていない。ダブルチェック等含め殆ど出来なかった。
		総合記録シート・日誌から読み取りとユニット会議の連動性	×	
2	第2段階(ケア運営体制の基礎作りステップ6～8)習得	ケアリーダー養成研修会議	×	今年度には出来なかった為来年度行う。
		現場統括責任者の役割見直し	×	
		リーダー会議・全体会議の検討・見直し	△	
		リーダー会議・全体会議・ユニット会議の連動性	△	ユニット会議は職員との情報伝達の方法として毎月行う事ができた。
		リーダー会議・全体会議・ユニット会議の評価・再検討	△	
		オペレーションシートを活用した標準ケアの定着(第1段階)	×	
3	健康	①検討	×	オペレーションシート活用に関しては今年度出来なかった為来年度の課題とする。
		②オペレーションシートのケアを担当勤務者に割り振りして開始	×	
		③評価・途中評価・最終評価	×	
4	食事・行事	①方法の検討(前年度のまとめ確認)	×	業務多忙の為出来ず来年度は廃止。
		②開始	×	
		③評価・途中評価・最終評価	×	
5	安心して落ち着く空間づくり	①方法の検討	○	
		②開始	○	今年度特養はテーブルは位置を変え、2階玄関スペースにはカラオケ出来るようにしてみた。・小規模の空間づくりができ小規模スペースにもカーテン・スリッパを購入するなどして生活感ができた。メンバー構成を検討し、来年度は利用者様の日常管理迄行う。
		③評価・途中評価・最終評価	○	
6	掃除・運行・管理	酒井介護員からの食事技術の習得	○	
		①方法の検討(前年度のまとめ確認)	○	今年度も毎日食事提供することができた。食事作りその他の仕組みについて同メンバーで継続し、介護職員全員が食事関係全般について分かるようにしていく。
		②開始	○	
7	地域交流活動	③評価・途中評価・最終評価	○	
		④評価・途中評価・最終評価	○	今年度も物品の切れ間無く購入等行えた。必要物品を検討してから購入できるようにしていく。
		町内会会議(参加等)	×	
8	運営推進会議	運営推進会議(年6回開催)	○	
		①運営推進会議の検討	○	運営推進会議6回行うことが出来た。来年度は避難訓練に地域の方年2回中1回でも見学が参加していただけるよう会議で交流を深めていく。

部門名 地域包括支援センター

区分	項	行動具体策	結果	備考
1	予防給付・特定高齢者マネジメント	①予防給付から介護給付への悪化の原因を探る(年間、40件以内)	○	24年度の介護給付への移行、所謂悪化した認定者は、48人。うち支援を受けていない者が5人、委託が10人となり、包括での支援者は33人となる。悪化の原因は、認知症の進行、転倒・骨折、脳卒中と続く。なお、自立(非該当)に改善した人は、4人となった。
		②二次予防高齢者のマネジメントは、効果の実感できるトレーニングを支援する。	○	23年度から、二次予防トレーニング希望者に対して、事前説明会と体力測定を行い、アセスメントと簡易プラン作成を行っている。1クール5人程度のトレーニングが好評で、グループダイナミクス効果を生んでいる。トレーニング終了後の評価面接にも同席している。
2	総合相談、虐待権利擁護、困難事例	①虐待は通報から48時間以内に実態把握、面接、必要に応じて立ち入り調査等を行なう。	○	立入り調査を必要とするような緊急な身体的虐待はなかった。心理的虐待については、市介護福祉課、包括、介護サービス事業所、民生委員等での高齢者虐待ネットワークミーティングを開催して、対応している。
		②困難事例はケア会議を開催し、地域と専門職が協力して対応する。	○	傷害罪、脅迫罪等の触法高齢者が認知症となり、包括的支援が必要になった事例については、市介護福祉課、町内会、民生委員、介護事業所、社協、ケアマネジャー等とのケア会議を数回開催し、さらに数10回に亘り関係者と協働、情報交換しながら支援し
3	包括的・継続的マネジメント	①地域防災訓練等には積極的に参加することで、実際の災害に即応できるようにする。	○	24年度は、当担当圏域での地域防災訓練の実施はなかった。今冬の断水事故や雪害被害の際には、介護予防支援利用者や独居高齢者への情報提供により、生活面の支障を回避するための対応に努めた。
		②啓蒙活動として「ふれあい広場」	△	2年間継続した地域包括支援センターPRのためのふれあい広場での出店は行なわなかった。今年度は、介護者リフレッシュ事業、市内のボランティア2団体等で講演依頼があり、地域包括支援センターの周知に役立てた。
		③「見守り」のための地域ネットワークを地域福祉会議等と連携	×	地域福祉会議等において、見守りネットワークの必要性を提案しているが、具体的な取り組みの検討には至っていない。
		④町連、民協、老連等との連携、協働を強化する。	○	町連、老連、民協の24年度総会には主任介護支援専門員が出席し、3団体との連携、協力関係の強化を図った。民協研修会には3回、市町連研修会では1回、老人クラブは1回の講話や講師を依頼され、講演等行なっている。